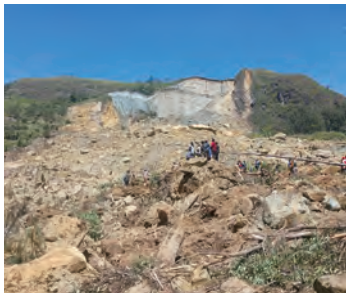
日本・パプアニューギニア協会会報
ごくらくちょう
Bird of Paradise
2024 No 84 1 Aug
発 行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会　編 集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部　発行日 令和６年８月１日

支援者のための支援の重要性　～エンガ州の地滑り災害を通じて～

寺田　美和
（特定非営利活動法人 HANDS（Health and Development Service）
パプアニューギニア事業プロジェクトマネージャー）

2024 年 5 月 24 日午前 3 時、パプアニューギニアのエンガ州で地滑りが起きました。被災地の Mulitaka は、私たちが 10 年前から一緒に活動を行ってきた場所で、活動関係者がたくさん住んでいる地域です。

最近は気候変動の影響で地滑りや洪水がよく起きていましたが、次々と流れてくる国際ニュースの頻度から深刻さが伝わって来ました。急ぎ Mulitaka の活動関係者の安否確認を試みましたが、すでに避難している方も多く、全員の所在が確認できたのは災害発生から 1 ヶ月後の事でした。


地滑りサイト

その様な状況下で誰よりも早く被災地へ支援に入った人々がいました。被災地近辺に住む、村落保健ボランティア（VHV）です。

彼らは、住民の中から選ばれた、保健の基礎知識を持った一般の方々です。私たちは 2014 年から、保健医療施設から遠く離れた地域に住む人々が自らの力でより健康な生活を送れる様に VHV の育成を行ってきました。エンガ州では現在、約 270 名の VHV が活動しています。その中の 20 名が、誰から頼まれたわけでもなく、災害当日から被災地へ駆けつけ、泊まりがけで支援活動を行っていました。

彼らはまず負傷者を近隣の医療施設へ運び、診療の手伝いをしました。また家を失った被災者の一時避難先として、保健医療施設敷地内にシェルターを建設しました。木材とシートを使用し、たった一日で雨風を凌げる場所を作る姿には本当に感心しました。その後、被災者に対して世帯調査を行い、行方不明者のリストを作成しました。災害発生から2日後には、行方不明者の名前と人数を特定し、州保健局に情報を提出しました。それらの作業と並行して、スコップ等を使用して手作業で生き埋めになった方の救出作業を行いました。災害から 2 か月経った今も、彼らは国際機関から運ばれてくる支援物資の管理を手伝っています。

災害の現場で昼夜なく支援を続けてきた人々が他にもいます。保健行政の職員たちです。国内の災害対策本部との対策会議、国際機関等からの支援に関わる調整や被災地訪問への同行、避難キャンプの設営運営、支援物資の配布や管理。日々状況が変わる混乱の中、エンガ州の副保健局長と彼女の補佐官は休みなく対応に追われていました。

簡易シェルター

日本国内で大きな災害が起きた場合、他の自治体からの支援が一時的に入る仕組みがあります。しかしながら、パプアニューギニアでは地方自治体間の連携体制は確立していない様で、副保健局長とその補佐官への負担はかなり大きいものでした。そして災害から 1 か月半後、補佐官が亡くなりました。急な体調不良で災害との因果関係はわかりませんが、心身ともに大きな負担がかかっていたことは事実だと思います。

今回の災害を通じて私は、支援を行う人々に対する支援体制を整えることが非常に重要だと感じました。災害時において、被災者本人やご家族に対する支援は次々と届くのですが、同じ被災地で彼らをサポートする人々への支援は足りていません。災害直後から泊まりがけで活動を行う VHV に対して、彼らの衣食住や家族への負担を気にかける人がいなかったこと、また、その役割すらエンガ州保健局職員に求められていたことが残念でなりません。支援活動を行う行政職員の増員や州外からの支援員がすぐに到着しなかったことが、彼らの負荷を大きくしていたと考えます。

災害直後から私たちは復興支援のための募金を行ってきました。これまでのご寄付の総額は私たちの想像を超え、多くの方々がエンガの人々の事を想い、行動に移してくださったことに深く感謝しております。大切なご寄付は、まずは被災された方々の生活改善のために、避難キャンプの水供給と移動式診療の実施に使用させていただきます。更に、被災された方々は今後、避難キャンプから地滑りの起きにくい地域へ集団移住する予定です。新しいコミュニティを作る過程で、保健医療設備や学校の建設、また子供たちの学用品の購入費用に義援金の一部を使用させていただきます。そして一方で、私たちが気にかけている支援を行う人々への支援として、VHV の活動支援を行っていきたいと考えています。

村落保健ボランティア（VHV）

被災された方が、またその支援に尽力している人々が、一日も早く通常の生活に戻ることができるよう、サポートを続けていきます。

避難キャンプ

パプアニューギニア（PNG）でのショートステイで開花した才能　～タカくんの場合～

松本　盛雄　（元駐 PNG 日本国特命全権大使）

2015 年夏、タカくん（当時小学校 4 年生）は付き添いの先生と二人で PNG にやってきた。もちろん PNG 訪問は初めて。1 週間の交流体験で、到着するやいなやソゲリ国立公園に行き、極楽鳥を見た。「鳴き声がとてもきれいだった」との印象。現地のこども達の大歓迎を受け、川でオタマジャクシを捕まえたり、カヌーで川を下ったり、椰子の木に登ったり、日本では体験できないことを沢山やった。

福岡県出身のタカくんは、学校では「問題児」。付き添いの N 先生は学校で行き場のないこども達のために「青空広場（オープンクラス）」を担当していた。「特に問題というよりは、人と話したり、一緒に何かをやるのが好きな子で、教室でも授業中に隣の子と話をしたり、いたずらをしてはよく立たされていた」という。タカくん自身は「成績はよくなかった。テストで 30 点というのもあった。特に社会科は嫌いだったので、まったく授業を聞いていなかった」という。そんなわけで授業が終わるとよくオープンクラスに顔をだしていたようだ。ただ、運動は得意で、走るのが速く、徒競走では常に一番だった。ちなみにタカくんは三人兄弟の末っ子で、上の二人の兄はいずれも成績優秀。

タカくんが 2 歳の時からタカくんの家では、ブリッジクラブ(注)の国際交流で海外からやってきた青少年をホームステイで受け入れていた。その中に PNG から来たライギくんがいた。「タカは向こうでどうなっても構いませんから思い切り自由に過ごさせてください。」PNG に出発する際に母親がいった言葉だ。多分ライギくんがいたことや、受け入れ先の関係者、特にブリッジクラブ PNG 支部で活動している伊藤明徳さんの存在が安心材料でもあっただろう。とはいえマラリアや風土病が蔓延し、治安状況も極悪な PNG に息子を一人で送り出す母親の勇気には脱帽した。

PNG では言葉はほとんど通じなかったが、タカくんは人と付き合うのが大好きだったので、身振り手振りで意思疎通を図った。日本から持っていった「ロックソーラン」の音源を使って現地のこども達といっしょに踊りを踊った。これが大好評で、踊りの大好きな PNG のこども達はあっという間に打ち解けて、タカくんの指導で、2 日もしないうちに覚えてしまった。その後、大使公邸での催しに、これらのこども達がやってきて踊りを披露してくれることがあった。1 週間はあっという間に過ぎ、帰国の飛行機に乗った。そのとき一時帰国でたまたま一緒の飛行機に乗り合わせた私と出会ったのだ。

私は、タカくんの名前もよく覚えていなかったが、とても強く記憶に残っていた。「あれからあの子はどうなったのだろう？また会って当時のことを聞いてみたい」そんな気持ちから日・PNG 協会を通じて連絡先をたどり、この夏福岡で再会を果たすことができたのだ。「あのときの経験は自分では特にインパクトを感じていないが、多分それが大きな転機となったのだろう。中学に行ってからは県立筑紫丘高校という名門の進学校に入ることを目指して勉学に打ち込んだ。」結果は別の高校に入って、今年福岡の大学に進学した。もちろん運動はつづけていて、いまはラクロス部で頑張っている。

私は、日本の「一律主義」「横並び」、すべての生徒に同じレベルの成績を求め、その規範から外れるこども達を「落ちこぼれ」「問題児」などとして、一人一人の特別な能力を潰してしまう教育に危惧を感じている。「国際化」を提唱しつつ、それが「英語ができる」という「技術」に集中するのでは、真の「国際化」はおぼつかない。むしろ相手と自分の違いやそれぞれの特色を理解し合う態度や習慣を身につけることこそが「国際化」のスタートだと思う。タカくんは幸いに家族や周囲の関係者、国際交流を続ける組織・人材に囲まれていた。しかし、日本には、沢山の「枠にはまらない」で苦しんでいるこども達がいる。PNG のような日本とはまったく異なる座標軸の世界を体感させてあげれば、彼らが自分の「能力」を発見できることにつながるのではないかと考えている。

「将来どのような仕事をしたいか」との質問に対して、タカくんは「自分は人を相手にするのが好きなので、営業が向いていると思う。そのような勉強を続けて銀行などで働きたい」という。19 歳という若さ、これから海外留学やインターンシップなどを通じ PNG で花開いた長所を最大限活かせる国際的な仕事をしてもらいたいものだ。

注　2002 年 2 月に設立された「NPO 法人アジア太平洋こども会議・イン福岡（麻生泰理事長）」の 20 周年記念事業で発足した組織で、正式名称は「BCIO（ブリッジクラブ国際組織）」。アジア太平洋地域の青少年交流を目的として各種交流活動を展開している。

在 PNG 日本大使館情報　大使館の最近のできごとの御紹介

渡邊　信之（駐 PNG 日本大使）

今年の夏は、日本では連日猛暑に見舞われているようですが、PNG では一年で最も過ごし易い日が続いており、この時期だけは、日本と PNG が逆転しているようです。

エンガ州の地滑り被害に対する緊急援助

5 月 24 日、エンガ州ラガイプ・ポルゲラ地区で大規模な地滑りが発生し、多くの住民が亡くなられました。避難民を含めた被災者数は約 8 千人に上っています。日本政府は JICA を通じて緊急支援物資の供与を行うとともに、中期的な支援のために国連児童基金（UNICEF）及び国際移住機関（IOM）に対してそれぞれ 100 万米ドルを拠出しました。両機関は、水・衛生、一時避難施設、食料、保健等の分野での支援を提供していく予定です。被災者の方々が早く笑顔を取り戻し、復旧活動が着実に進むことを心から願っています。

リゴライス社とスガノ農機の鍬入式

5 月 30 日、セントラル州リゴ地区において、同地で稲作事業を営むリゴライス社と、日本の農業機械メーカーであるスガノ農機との間で開墾契約が締結され、鍬入式が行われました。リゴライス社はリゴ地区で同社が所有する 6,000ha の土地で稲作を開始するにあたり、スガノ農機から開墾技術と農業機械の協力を受ける予定です。スガノ農機によると、リゴ地区には稲の生育に適した肥沃な土壌が広がり、単位面積当たりで日本の 1.5 倍の稲穂の収穫が期待でき、また、恵まれた自然環境により年に 3 回の収穫ができる見込みだそうです。PNG 政府も本事業を積極的に支援する意向で、灌漑施設や電力供給システムのための資金を提供する他、リゴ地区を経済特区に指定する計画だそうです。PNG 政府はこの事業が成功事例となって PNG 全土へ展開されることを期待しています。大使館としましても、リゴ米の豊作とこの事業の成功を祈念するとともに、日本と PNG の関係がより一層多面的に発展することを願っております。

第 10 回大平洋・島サミット（PALM10）の開催

7 月 16 日から 18 日まで、東京で第 10 回大平洋・島サミット（The 10th Pacific Islands Leaders Meeting：PALM10）が開催されました。太平洋・島サミットは、日本が太平洋島嶼国との関係を強化する目的で 1997 年に初めて開催され、以降 3 年毎に日本で開催されています。今回の会議では、日本と太平洋島嶼国・地域が共通の課題に取り組みながら、来年に向けて「共に歩む」関係を確認し、「首脳宣言」及び「共同行動計画」が採択されました。また、PALM10 に際して、岸田総理大臣とパプアニューギニアのマラペ首相は首脳会談を行い、安全保障や経済協力、地域情勢等について議論しました。来年 2025 年はパプアニューギニア独立 50 周年であるとともに、日・パプアニューギニア外交関係樹立 50 周年ですので、両国関係をさらに発展させていきたいと考えています。

駐日 PNG 大使館情報　PALM10 太平洋・島サミット

荻原　聖子（パプアニューギニア大使館　大使秘書）

7 月 16 日から 3 日間にわたり太平洋・島サミット関連のイベントが開催されるにあたり、その前の週より、続々とパプアニューギニア本国より関係閣僚が来日されました。その数総勢 30 人強。近年では最多の人数が来日されたのではないかと思います。7 月 18 日に PALM10 本会議が開催され、太平洋島嶼国 14 か国、仏領 2 地域、オーストラリア、ニュージーランドの計 19 ヵ国・地域の首脳及び PIF 事務局長が参加されました。

PNG ではマラペ首相ご夫妻、Tkatchenko 外務大臣、Maru 国際貿易投資大臣、Lelang 地域経済開発大臣、Wong 水産大臣、Boito 農業家畜大臣、Tonpi 事業開発副大臣などと共に、PNG 外務省、PNG 首相官邸より 30 人を超える人数で、島サミット本会議の他に、岸田首相との首脳会談から始まり、バヌアツ共和国、ニウエ共和国との首脳会談、アメリカ合衆国の要人との朝食会、日経新聞の単独インタビュー、日系企業とのミーティングなど盛沢山の内容でした。首相を始め、Abal 大使、各大臣も共に分刻みのスケジュールをこなされました。岸田首相からは、島サミットの開会において、地域を取り巻く環境が複雑化する中で、日本と太平洋島嶼国地域との関係を更なる高みに引き上げ、未来に向けて共に歩んでいきたい、地域の一体性、それを体現する PIF の「2050 年戦略」を強力に支持する旨を述べられました。

ポイントとしては、PIF の「2050 年戦略」に沿って、政治的リーダーシップと地域主義 / 人を中心に据えた開発 / 平和と安全保障 / 資源と経済開発 / 気候変動と災害 / 海洋と環境 / 技術と連結性の 7 分野に沿って議論が行われました。閉会にて、その上で未来に向けて日本と太平洋島嶼国が「共に歩む」関係を強固に確認致しました。

令和６年度定期総会を開催いたしました

日本・パプアニューギニア協会　事務局

６月２７日に霞山会館に於いて令和６年度定期総会を開催いたしました。会員の皆様にお送りいたしました第１－５号議案に関しましてすべてご承認をいただきました。会員皆様には総会開催へのご協力誠にありがとうございました。

本年度はTOKTOK会を積極的に開催してまいります。第一回目は９～１０月にはHANDSの寺田様からエンガ州での災害現場での援助の様子などをお話いただく予定です。第二回目は来年２月ごろにPNGからの帰国された日本人に現地の様子などをお話いただく予定です。

奨学金事業も継続し積極的に現地の学生への支援をしてまいります。PNGから多くの留学生が来日予定であり、彼らを囲む会も開催を予定しております。当「ごくらくちょう」、メルマガは継続して発行してまいりますので、ご意見ご要望などございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

総会後の懇親会では、育桜会の松澤会長よりPNGにおける桜の植樹予定についてお話をいただきました。日本・パプアニューギニア友好議員連盟より田中和徳先生にご臨席を賜りました。

ご承認いただきました、令和６年度～令和７年度の理事は次の通りです。２年間よろしくお願いいたします。

令和６年度 - ７年度　役員理事リスト（敬称略、五十音順）

会　長	岩﨑(橋)　廣治	(留任)
副会長	及　川　正　博	(留任)
	賀　集　イレーネ	(留任)
	片　岡　明　人	(留任)
	川　口　正　義	(留任)
	喜多村　裕　介	(留任)

	郡　修　三	(留任)
事務局長	島　田　謙　三	(留任)
	鈴　木　紀久代	(留任)
	高　松　裕　満	(留任)
	辻　尚　志	(留任)
	豊　田　由貴夫	(留任)

	中　村　弘	(留任)
	西　山　肇	(留任)
	花　井　錬太郎	(留任)
	武　藤　優	(留任)
	武　藤　優	(留任)
名誉会長	村　田　吉　隆	(留任)

	百　瀬　春　彦	(新任)
	柳　田　正　弘	(留任)
名誉顧問	山　下　勝　男	(留任)
監　事	土　屋　耕太郎	(留任)

エンガ州地滑り災害への募金のお礼とご報告

皆様からの心温まる義援金に感謝申し上げます。

今後のHANDS様の活動などはできるだけ詳しく皆様にご報告してまいります。

７月１日付けのご報告をさせていただきます。

法人・団体様より	5,990,000円
個人様より	615,000円
当協会より	250,000円
合計	6,855,000円

HANDS様への引き渡し状況

６月24日	5,310,000円
７月１日	1,545,000円
合計	6,855,000円

その後のお預かり

７月３日　10,000円（団体様）

８月末集計の後HANDS様へのお引渡し予定です。

事務局からのお知らせ

ご案内のとおり６月27日に年次総会および懇親会を開催いたしました。協会も2002年の創立より22年を過ぎました。会員の皆様には運営へのご協力に深く感謝申し上げます。

本年度はご報告のとおりエンガ州の地滑り災害への募金を実施し、HANDS様を通じて大きな貢献がで来ております。継続して現地の情報をご報告させていただきます。

今後のスケジュールはメルマガ、ごくらくちょうを通じてご案内させていただきますので、多くの方のご参加をお待ちいたしております。

本年度もよろしくお願いいたします。

日本・パプアニューギニア協会　会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数　◆ 法人会員：25社　◆ 個人会員：94名（2024年7月31日現在）

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法　郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年　会　費　個人会員6,000円　家族会員3,000円　法人会員60,000円　学生、PNG人1,000円

会費受付　郵便振替口座をご利用ください。

口座番号　00140-2-277582

加入者名　トクヒ）ニホン　パプアニューギニアキョウカイ

お問い合わせ先　日本・パプアニューギニア協会事務局
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町３－２－12　社会保険労務士会館９階　日本ビジネスライン㈱内
TEL:03-5216-3555　FAX:03-5216-3556　E-mail:info@jpng.or.jp　URL:http://www.jpng.or.jp/